

—イザヤ8章・23b~9・3、1コリント1章・10-13、17、マタイ4章・12-17—

イザヤの預言 先に / ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが / 後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた / 異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。闇の中を歩む民は、大いなる光を見 / 死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。 / あなたは深い喜びと / 大きな楽しみをお与えになり / 人々は御前に喜び祝った。刈り入れの時を祝うように / 戦利品を分け合って楽しむように。(後略) —イザヤ8章—

マタイによる福音 イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、 / 湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、 / 異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、 / 死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。 —マタイ4章—

年間第3主日

(神のことばの主日)

「魂の救い」

聖書は人間の発意によるものではなく、聖霊の促しによって書き起こされたもので、すべて神のことば「*kyōwa*」。

今日、年間第3主日は神の「*kyōwa*の主日」です。祭儀で拝聴する神のことば「*kyōwa*」注目ください。

ミサの前半は、みことばの義「*kyōwa*」、三つの聖書箇所が朗読されます。

第一朗読は 旧約聖書から

第二朗読は 使徒書から

第三朗読は 福音書から

旧約聖書は、神の救いの計画の「預言」が主に朗読され、その預言の成就が第三朗読で新約聖書から福音書で「主のみことば」として朗読されます。

この福音を受けた使徒たちの「証し」が第二朗読です。

今日の典礼は、神は真実な方で、苦難の中で神の救いを待ち望む者に、救いは必ず実現するという福音「*kyōwa*」です。

かつて、自らの罪のため国を滅ぼし、大国の支配下で闇の中にいた民に神は民を見捨てず、大いなる救いの喜びが訪れる日が来る「*kyōwa*」イザヤが預言したその日が、今日、ガリラヤ地方にイエスの到来によって実現をみたのです。

多くの病の治癒は、神の国メシア到来の印でしたが、しかし、救いが癒しから始まって、そこでとどまらず、魂の救い「*kyōwa*」にまで至らなければ真の救いとは言えません。

人は、体が癒されたなら、それによって、より信仰を堅め、神の道に従って魂の救いを目指すよう神は私たちの信仰を見ておられ

ます。

かつて、主が民を導かれた四〇年の荒れ野の旅を思い起こし、

神が民を苦境の中で試されたのは、民の心にある事、すなわち、「ご自分の戒めを守るかどうか、人は神のことば」によって生きることを私たちに教えるためであったことを！

真の幸せにたどり着く前に、神が私たちに体験して欲しいと望めば、神は苦しい試練も私たちに許されることを私たちは信仰で知っています。そして感謝の心でそれを受け取ります。イエスの歩まれた道をたどりながら。

2023年1月22日

主任司祭 昌川信雄

